

## 驚きの白さ

札幌厚生病院 初期研修医

しが なおき  
志賀 直樹

初めまして。北海道大学出身、札幌厚生病院初期研修医2年目の志賀直樹と申します。これが掲載されている頃には初期研修を終了し、内科専攻医として働いている予定であり、あっという間に時間が過ぎてしまったと感じております。

今回は同じく札幌厚生病院で耳鼻咽喉科専攻医として勤務されている審一範先生からご紹介いただきました。審先生は大学の先輩であり、直接の接点は少ないものの私と共通の知り合いが多く、いつの間にか仲良くさせていただいている不思議な縁のある先生です。研修医室では誰とでも親しげに話している様子を目にする機会が多く、その社交性の高さに驚かされるばかりです。今回のような貴重な機会をくださり、誠にありがとうございます。

本エッセイはテーマが自由ということで、とりあえず最近私自身に起こった出来事から話を膨らませていけたらと思います。

つい先日のことですが、私は回診時にある患者様から開口一番に「先生、顔色悪くない？体調大丈夫ですか？」と心配の声をいただきました。その日は食事も睡眠もしっかり取れており寧ろ快調だったため、この言葉には結構な衝撃を受けました。たしかに私はかなり色白で、同期の友人からは担当している白血病患者と同じ顔色をしていると不謹慎ながら冗談めかして言われたこともあります。まさか患者様から心配されるほどの不健康な白さとは思っていませんでした。

今思い返すと、先述の同期の一言もそうですが、私には肌の色に関するエピソードが多くあります。陸上部の女子に敵視される、他校の生徒に名前は知らないけど白い人として覚えられる、写真で光を反射する等挙げれば切りがありません。留学生のイタリア人の子と歩いていた時に、それを見た友人から私のほうが白かったと言われた時は思わず母に家族歴を聞きました。純正日本人だったようです。そんな私の白さの根源は母にあるのですが、母が部活の試合を応援に来た時それを見たマネージャーから「本当にお母さん白いですね！」と興奮気味に声をかけられたこともあります。生まれてから20年以上それを見てきた私にわざわざ試合の途中で言わなくても良かったと思います。

さて、そんな私の見た目に関しての話だったので、我々医師は患者様の見た目を重要な所見とし



愛知県出身。滝高校、北海道大学を卒業後、札幌厚生病院で初期研修中。掲載時には初期研修を終了し、そのまま同院で内科専攻医として勤務予定。写真はオーストラリア旅行中に撮ったものです。レフ板並みの反射を見せつけております。

て観察することと思います。人を見た目で判断するという言葉尻だけを捉えると昨今の世の中からは大ブーイングを受けそうな行為ですが、臨床的に意義のあることなので世間には目をつぶっていただきたいものです。実際に顔色の悪さは貧血等を示唆する所見であり、私の顔色を見て心配をしてくださった患者様の考えは至極真っ当なものだったと思います。しかし私自身が至って健康であったように、見た目だけでは正確な判断は下せないというのも事実です。救急外来にウォークインで来られた見た目はそれなりに元気そうな方でも検査をしてみると危険な疾患が隠れているなんてこともあるので、最近では自分の観察眼をどれだけ信用すべきかわからなくなっております。まだまだ精進が足りないことを痛感させられます。

外見と世の中の風潮ということでもう一点。最近では外見に限った話ではないですが、持って生まれたものに左右されない平等な社会にしようといった動きが増えたように思います。現実的に考えてそれが達成できるかはさておき、誰にでも平等に機会が与えられること自体はたぶん良いことだろう、と私自身も浅はかながら考えております。ただそういった風潮に影響されてか、最近はゲームや漫画のキャラクターがかっこいい男性やかわいい女性ばかりだと「そんなのは外見差別だ、外見がよくなければ活躍してはいけないのか」なんてことを言われてしまう、といった話を耳にしたことがあります。これは完全に個人的な意見なのですが、ゲームや漫画の中でくらしいはかっこいいキャラ、かわいいキャラが元気に動き回ってくれたほうが、読む側プレイする側としても楽しめるのではないかと思います。所詮は架空の物語であって、自分のことではないですし。ただこれ以上この話を広げようとすると物議を醸しだしそうなので、このあたりで筆を置いてお茶を濁そうかと思います。まとまりのない文章ではありましたが、ここまで読んでいただきありがとうございます。